

佳作

(子どもの部)

ママ、ぼくのことすき？

尾久宮前小学校 一年

高橋 悠貴

ぼくは、「ママ、ぼくのことすき？」というほんをよみました。ぼくがこのほんをえらんだのは、ママにすすめられたからです。

ぼくは、ねんちょうのあきにおにちゃんになりました。いもうとがうまれ、きょうだいができました。

しゅじんこうは、シロクマのポロ。ポロはさいきんママもパパもぼくのことをすきじゃなくなっちゃったのかなと、ふあんなきもちですごしていました。そこで、ともだちにそうだんしてみました。ポロは、ともだちにいわれたとおりに、ママにちょ

くせつきいてみました。それで、ママのおなかにあかちゃんがいることをしりました。ポロは、ますますふあんになりました。そのときママがやさしくポロにはなしをしてくれて、これからもママがポロをすきなきもちはかわらないということにきづく、というおはなしです。

ぼくがいちばんすきなところは、ポロのママが、「どんなことがあっても、ポロはママのかわいいぼうやよ。ポロも、これからうまれてくるあかちゃんも、ママのだいじなたからもの。どんなことがあってもかわらないわ。」というところです。そこをよんでもちがジーンとしました。

ぼくも、いもうとがうまれてからママがいもうとのせわでいそがしくて、まえほどかまってくれないとかんじ、さびしいきもちのときがありました

た。でも、このほんをよんでママがいそがしくして
いるときも、ぼくがすきなきもちはかわらないん
だろうなおもいました。

このほんをよんで、ママのきもちをかんがえる
ことができました。あんしんできたので、よんでよ
かったです。ぼくも、いもうとをかわいがろうとお
もいました。